

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-263394
(43)Date of publication of application : 07.10.1997

(51)Int.CI. B66F 9/06
B66F 11/04

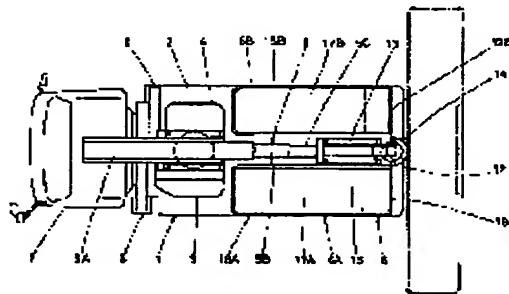
(21)Application number : 08-075589 (71)Applicant : TADANO LTD
(22)Date of filing : 29.03.1996 (72)Inventor : NINOMIYA TAKASHI

(54) HIGH LIFT WORK VEHICLE

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To largely insure the working range on a deck, lower the total height of a vehicle to the utmost at housing, and make the housing posture on the vehicle to be optimum.

SOLUTION: In this high lift work vehicle constituted so that a deck 6 as a scaffold for an operator is ratably supported with the extreme end part of a boom 5 rotatably and derrickably fitted onto a vehicle 1, the deck 6 is constituted of two divided decks 6A, 6B supported with a rotational mechanism 14 provided on the extreme end part of the boom 5. The divided decks 6A, 6B are constituted so that they are arranged right and left against the rotational center of the rotational mechanism 14, can be in a divided posture nearly in parallel with the boom 5 and in a united posture squarely crossing with the boom, hence the working range on the deck 6 can be largely insured, the total height of the vehicle 1 at housing can be lowered to the utmost, and the housing posture on the vehicle 1 can be made optimum.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-263394

(43)公開日 平成9年(1997)10月7日

(51)Int.Cl.⁶
B 6 F 9/06

識別記号 庁内整理番号

F I
B 6 F 9/06

技術表示箇所
M
B
U
X

11/04

11/04

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全7頁)

(21)出願番号 特願平8-75589

(22)出願日 平成8年(1996)3月29日

(71)出願人 000148759

株式会社タダノ

香川県高松市新田町甲34番地

(72)発明者 二宮 隆

香川県大川郡志度町大字志度4139番地99

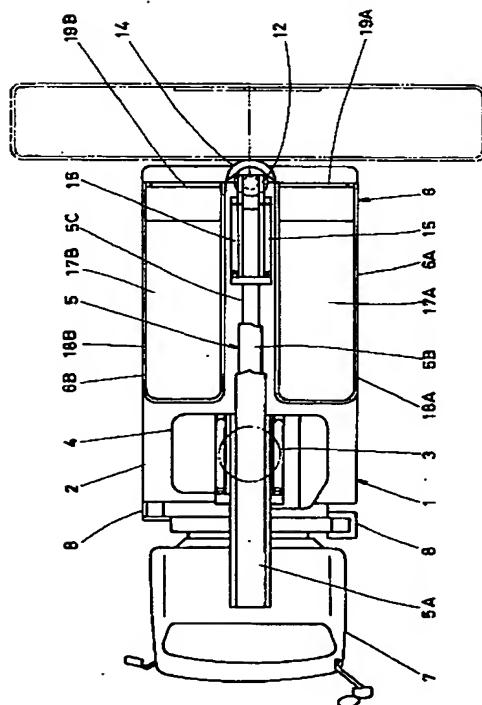
(74)代理人 弁理士 大浜 博

(54)【発明の名称】高所作業車

(57)【要約】

【課題】 デッキ上での作業範囲を大きく確保できるとともに、格納時においては車両の全高を可及的に低くでき、しかも車両上での格納姿勢を最適となし得るようにする。

【解決手段】 車両1上に旋回および起伏駆動自在に取り付けられたブーム5の先端部に、作業者の足場となるデッキ6を旋回駆動自在に支持してなる高所作業車において、前記デッキ6を、前記ブーム5先端部に設けられた回転機構14に支持された2個の分割デッキ6A, 6Bにより構成するとともに、該分割デッキ6A, 6Bを、前記回転機構14の回転中心に対して左右に配置し、前記ブーム5と略平行な分割姿勢と、前記ブーム5と直交する合体姿勢とをとり得るように構成して、デッキ6上での作業範囲を大きく確保するとともに、格納時においては車両1の全高を可及的に低くなし、しかも車両1上での格納姿勢を最適となし得るようにしている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 車両(1)上に旋回および起伏駆動自在に取り付けられたブーム(5)の先端部に、作業者の足場となるデッキ(6)を旋回駆動自在に支持してなる高所作業車であって、前記デッキ(6)は、前記ブーム(5)先端部に設けられた回転機構(14)に支持された2個の分割デッキ(6A), (6B)により構成されており、該分割デッキ(6A), (6B)は、前記回転機構(14)の回転中心に対して左右に配置され、前記ブーム(5)と略平行な分割姿勢と、前記ブーム(5)と直交する合体姿勢とをとり得るように構成されていることを特徴とする高所作業車。

【請求項2】 前記ブーム（5）の旋回中心は、前記車両（1）の前部に配置されていることを特徴とする前記請求項1記載の高所作業車。

【請求項3】 前記ブーム(5)は、相互に間接機構により連結された第1、第2および第3ブーム(5A)、(5B) (5C)により構成されていることを特徴とする前記請求項1および請求項2のいずれか一項記載の高所作業車。

【発明の詳細な説明】

[0 0 0 1]

【発明の属する技術分野】本願発明は、高速道路や橋梁の点検・補修等のために使用される高所作業車に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】高速道路や橋梁等の建設、竣工検査、メンテナンスには、困難を伴う作業であり、足場を組んでの作業は、危険で効率が悪く、設置・撤去に時間とコストがかかるし、下の道路から高所作業車を使用しての作業は、交通への影響が大きく、揚程にも限界があって作業できない個所が多いという問題があった。しかも、高速道路や橋梁の点検・補修作業は増加傾向にある。

【0003】上記のような現場の切実な要求に応えるために、車両上に旋回および起伏駆動自在に取り付けられたブームの先端部に、作業者の足場となるデッキを旋回駆動自在に支持してなる高所作業車が提案されている（例えば、実開平4-77593号公報参照）。

[0 0 0 4]

【発明が解決しようとする課題】ところが、上記公知例の高所作業車の場合、ブーム先端部には1個の作業用デッキが設けられているだけなので、デッキでの作業範囲が限定されるとともに、格納時においては、デッキをブームの下方位置に格納する方法しかとれず、デッキとブームとが重なり合う格納状態となる。従って、車両の全高が高くならざるを得ないこととなり、走行時の安定性がよくないという問題があった。

【0005】本願発明は、上記の点に鑑みてなされても
ので、デッキ上での作業範囲を大きく確保できるとともに、格納時においては車両の全高を可及的に低くでき

しかも車両上での格納姿勢を最適となし得るようにすることを目的とするものである。

[0 0 0 6]

【課題を解決するための手段】本願発明の基本構成では、上記課題を解決するための手段として、車両1上に旋回および起伏駆動自在に取り付けられたブーム5の先端部に、作業者の足場となるデッキ6を旋回駆動自在に支持してなる高所作業車において、前記デッキ6を、前記ブーム5先端部に設けられた回転機構14に支持され

10 た2個の分割デッキ6A, 6Bにより構成するとともに、該分割デッキ6A, 6Bを、前記回転機構14の回転中心に対して左右に配置し、前記ブーム5と略平行な分割姿勢と、前記ブーム5と直交する合体姿勢とをとり得るように構成して、デッキ6上での作業範囲を大きく確保するとともに、格納時においては車両1の全高を可及的に低くなし、しかも車両1上での格納姿勢を最適となし得るようにしている。

【0007】本願発明の基本構成において、前記ブーム5の旋回中心を、前記車両1の前部に配置した場合、車両1上にデッキ6を格納する際には、ブーム5を格納した後車両1後方から分割デッキ6A, 6Bを90°回転させればよくなり、格納操作が容易となる点で好ましい。

【0008】また、前記ブーム5を、相互に間接機構により連結された第1、第2および第3ブーム5A、5B、5Cにより構成した場合、作業範囲の拡大と格納状態のコンパクト化とを両立できる点で好ましい。

[0009]

【発明の実施の形態】以下、添付の図面を参照して、本願発明の好適な実施の形態について詳述する。

【0010】この高所作業車は、自走式の車両1と、該車両1の荷台2の前部に設けられた旋回座3に対して旋回駆動自在に支持された旋回台4と、該旋回台4に対して起伏駆動自在に取り付けられたブーム5と、該ブーム5の先端部に対して旋回駆動自在に支持された作業者の足場となるデッキ6とからなっている。符号7は車両1の運転席、8は車両1を固定するためのアウトリガである。

40 【0011】前記ブーム5は、前記旋回台4に固定されたベースアーム9に対して第1枢支軸10Aを介して起伏自在に枢着された第1ブーム5Aと、該第1ブーム5Aの先端に第2枢支軸10Bを介して揺動自在に枢着された第2ブーム5Bと、該第2ブーム5Bの先端に第3枢支軸10Cを介して揺動自在に枢着された第3ブーム5Cとからなっており、これら第1、第2および第3ブーム5A～5Cは伸縮自在とされている。また、旋回台4と第1ブーム5Aとの間、第1ブーム5Aと第2ブーム5Bとの間および第2ブーム5Bと第3ブーム5Cとの間には、それぞれの起伏角度を決定するための油圧シ

50 リンダ11A、11B、11Cが介設されている。つき

り、前記枢支軸10A～10Cと油圧シリンダ11A～11Cとが特許請求の範囲における関節機構を構成することとなっているのである。

【0012】前記第3ブーム5Cの先端には、揺動プラケット12が枢支軸13を介して揺動自在に枢着されており、該揺動プラケット12に対して回転機構14を介して前記デッキ6が支持されている。前記揺動プラケット12と前記第3ブーム5Cとの間に配置した油圧シリンダ15により該揺動プラケット12を、前記ブーム5の起伏角度の変化に拘わらず前記デッキ6の床面が常時水平姿勢を維持し得るように揺動位置決めするようになっている。

【0013】前記デッキ6は、前記回転機構14に支持された2個の分割デッキ6A, 6Bにより構成されており、該分割デッキ6A, 6Bは、作業者の足場となる床面17A, 17Bと、これらの床面17A, 17Bを囲む防護柵18A, 18Bとによってそれぞれ構成されている。そして、前記防護柵18A, 18Bの向かい合う端部には、扉19A, 19Bが開閉自在にそれぞれ取り付けられている。なお、分割デッキ6A, 6Bにおける床面17A, 17Bの面積は、通常1個のデッキが保有している床面積と同等とされている。

【0014】前記分割デッキ6A, 6Bは、それぞれの床面17A, 17Bに連結された揺動アーム16A, 16Bを前記揺動プラケット12に対して回転機構14を介して回転自在に支持する構成とされている。

【0015】次に、前記回転機構14の構成について、図5および図6を参照して詳述する。なお、図5および図6においては、説明を分かりやすくするために、分割デッキ6A, 6Bは、床面17A, 17Bのみが図示されている。

【0016】この回転機構14は、前記揺動プラケット12の下端に固定されたガイドギヤ20と、前記各揺動アーム16A, 16Bの下面に支持された油圧モータ21A, 21Bと、該各油圧モータ21A, 21Bにより回転駆動され且つ前記ガイドギヤ20に対して噛合する駆動ギヤ22A, 22Bとからなっている。

【0017】そして、分割デッキ6A, 6Bを、合体姿勢(図6の実線図示状態)から分割姿勢(図6の鎖線図示状態)へ姿勢変更する場合には、前記油圧モータ21A, 21Bの駆動によって駆動ギヤ22A, 22Bを矢印M方向に回転駆動させる。すると、該駆動ギヤ22A, 22Bがガイドギヤ20にガイドされて矢印N方向に移動することとなり、分割デッキ6A, 6Bは前記ブーム5(具体的には、第3ブーム5C)と略平行な分割姿勢(図6の鎖線図示状態)となる。一方、油圧モータ21A, 21Bを前記と逆に駆動させて駆動ギヤ22A, 22Bを逆方向に回転駆動せることにより、分割デッキ6A, 6Bは、は前記ブーム5(具体的には、第3ブーム5C)と直交する合体姿勢に復帰される。な

お、分割デッキ6A, 6Bは、両姿勢において旋回駆動可能である。

【0018】上記のように構成された高所作業車においては、次のような作用効果が得られる。

【0019】例えば、高所作業車を橋梁上に固定した後、ブーム5を起伏させてデッキ6を点検・補修を要する個所に移動させて点検・補修を行うのであるが、その際、現場の状況に対応させて分割デッキ6A, 6Bは分割姿勢あるいは合体姿勢とされる。従って、分割デッキ

10 6A, 6Bにそれぞれ作業者が乗って個別に作業する場合と、分割デッキ6A, 6Bを合体させた後、扉19A, 19Bを開操作して床面17A, 17Bを連続させた状態の広い作業範囲で作業する場合とを選択できることとなり、現場状況に対応した作業ができる点で極めて有効である。

【0020】一方、高所作業車を走行させる際には、ブーム5およびデッキ6を荷台2上に格納してやる必要がある。その場合、まずブーム5(即ち、第1、第2および第3ブーム5A～5C)を収縮状態で折り畳み、その

20 後図2に鎖線で示すように合体状態にある分割デッキ6A, 6Bを回転機構14によりそれぞれ反対方向に90°回転させて第3ブーム5Cと平行な分割姿勢とすれば(図2実線図示)、車両全高の低いコンパクトな状態で、しかも左右対称なバランスのよい格納姿勢が得られることとなる。従って、高所作業車は安定な状態で走行できるのである。

【0021】ついで、この高所作業車による作業範囲について、図7を参照して説明すると、ブーム6(具体的には、第1～第3ブーム5A～5C)を最大伸長状態として起伏角度を適当に選択すれば、図7の(イ)～(ホ)位置において作業が可能となる。つまり、図7(イ)位置においては最大地上揚程H(例えば、22m)が、図7(ニ)位置においては最大地下深さD(例えば、12m)が、図5(ホ)位置においては最大地下手前ふところL(例えば、4m)がそれぞれ得られるのである。即ち、作業範囲が大幅に拡大することとなるのである。

【0022】なお、上記実施の形態においては、ブームを相互に関節機構を有する伸縮自在な第1～第3ブームで構成するようにしているが、ブームの形態は非伸縮ブーム式、單一ブーム式としてもよいことは勿論である。

【0023】また、この高所作業車は、橋梁の点検・補修に供されるのみではなく、他の高所作業用として利用できることは勿論である。

【0024】

【発明の効果】本願発明によれば、車両上に旋回および起伏駆動自在に取り付けられたブームの先端部に、作業者の足場となるデッキを旋回駆動自在に支持してなる高所作業車において、前記デッキを、前記ブーム先端部に設けられた回転機構に支持された2個の分割デッキによ

5

り構成するとともに、該分割デッキを、前記回転機構の回転中心に対して左右に配置し、前記ブームと略平行な分割姿勢と、前記ブームと直交する合体姿勢とをとり得るよう構成したので、デッキ上での作業範囲が大きく確保できるとともに、格納時においては車両の全高を可及的に低くなし、しかも車両上での格納姿勢を最適となし得ることとなり、高所作業用として最適なものとなるという優れた効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明の実施の形態にかかる高所作業車の側面図である。

【図2】本願発明の実施の形態にかかる高所作業車の平面図である。

【図3】本願発明の実施の形態にかかる高所作業車の後面図である。

【図4】本願発明の実施の形態にかかる高所作業車における

けるデッキ部分の拡大斜視図である。

【図5】本願発明の実施の形態にかかる高所作業車における回転機構部分の平面図である。

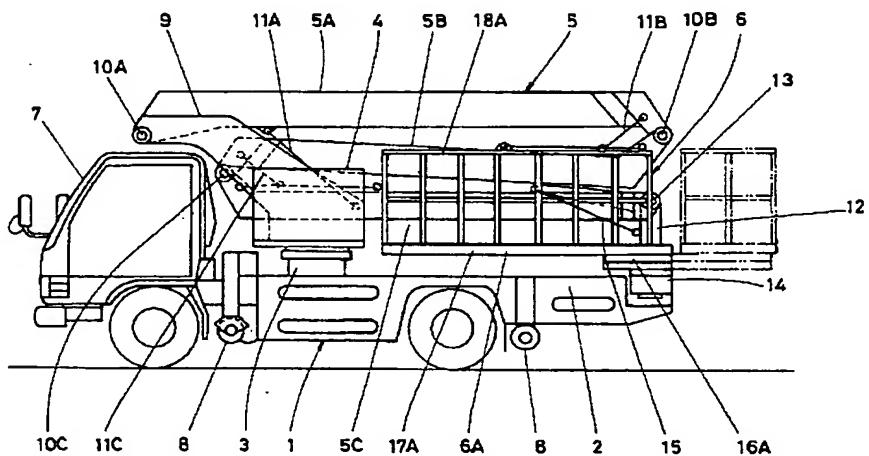
【図6】本願発明の実施の形態にかかる高所作業車における回転機構部分の斜視図である。

【図7】本願発明の実施の形態における高所作業車における作業範囲を説明するための説明図である。

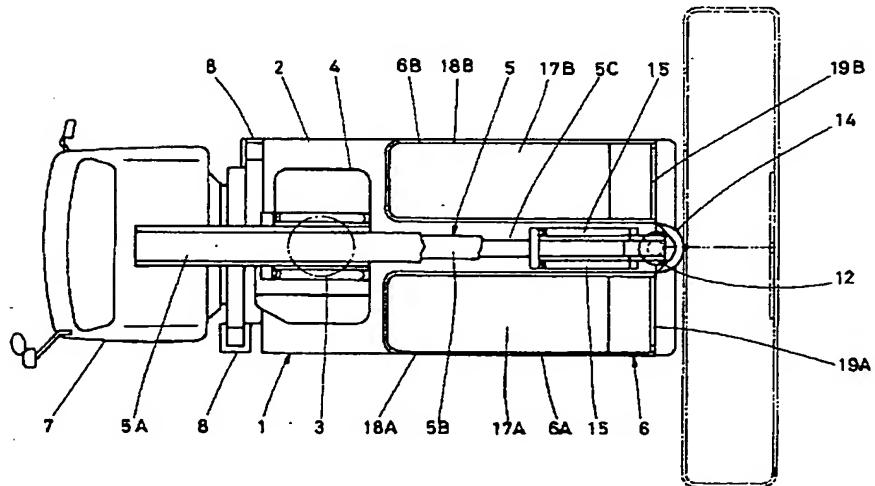
【符号の説明】

1は車両、3は旋回座、4は旋回台、5はブーム、5Aは第1ブーム、5Bは第2ブーム、5Cは第3ブーム、6はデッキ、6A、6Bは分割デッキ、10A、10B、10Cは枢支軸、12は揺動ブラケット、11A、11B、11Cは油圧シリンダ、14は回転機構、16A、16Bは揺動アーム、20はガイドギヤ、21A、21Bは油圧モータ、22A、22Bは駆動ギヤ。

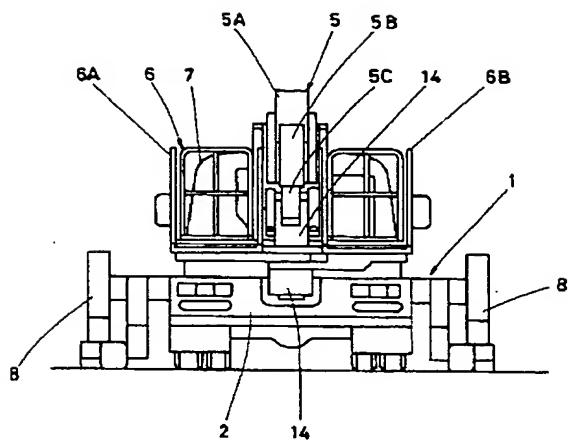
[図1]



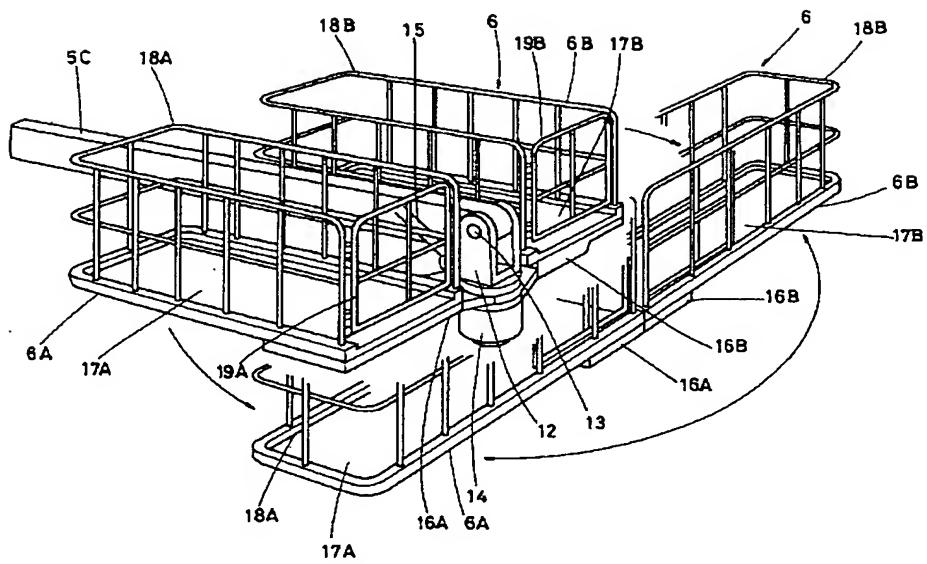
〔図2〕



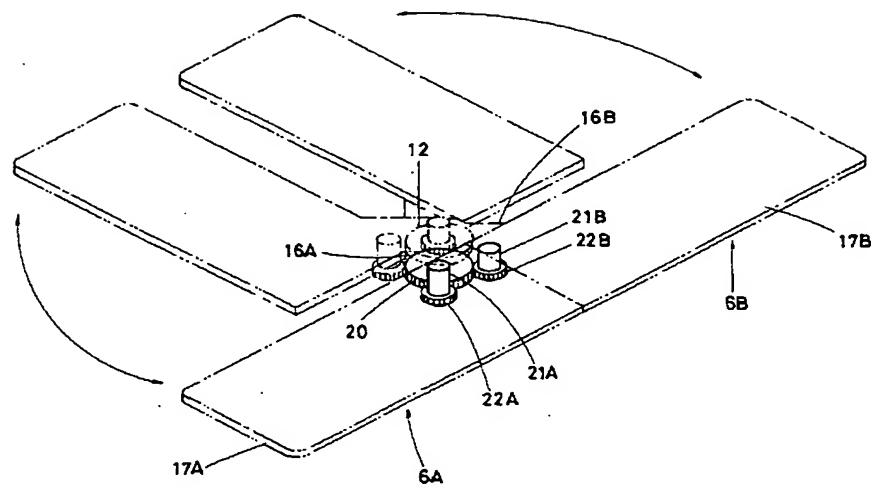
【図3】



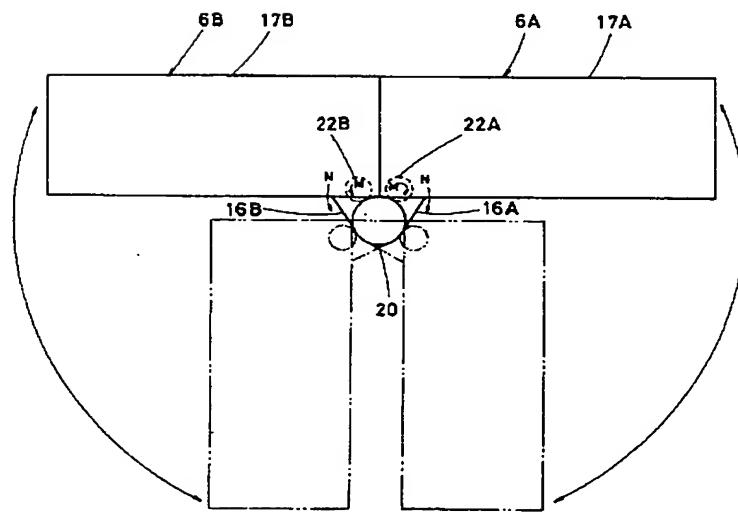
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

